

会議開催記録

会議名	第 11 回 菊川市総合計画審議会
日 時	平成 28 年 7 月 19 日（火）15:00～
場 所	菊川市役所 2 階 庁議室
出席者	審議会委員 9 名、事務局 6 名
議 事	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 （1）第 2 次菊川市総合計画パブリックコメント結果について（報告） （2）菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について（報告） 4 その他 5 閉会
議事要旨	1 開 会 ・互礼 ・委員 15 名のうち 9 名出席。過半数の出席により会議成立 ・資料確認 - 資料 1 第 2 次菊川市総合計画基本構想(案)に対するパブリックコメント(市民意見公募)の実施結果 - 資料 2 第 2 次菊川市総合計画(案) - 資料 3 第 2 次菊川市総合計画基本構想(案) - 資料 4 平成 27 年度 菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況報告書(案) - 資料 5 平成 27 年度 国地方創生先行型交付金活用事業の評価について 2 会長あいさつ こんにちは。暑い中、ご出席をありがとうございます。本日は審議会終了後に答申も予定しているということで、会場もいつもとは違ってしています。報告事項ということですが、議題が 2 つあります。あまり時間がないので、あいさつはこれくらいにして議事に入ります。 3 議事 （1）第 2 次菊川市総合計画パブリックコメント結果について 事務局 : 資料説明 会 長 : ありがとうございました。議事 1 について、皆さんから質問、意見等がありましたらお願いします。 委 員 : 意見をいただき、よく細かいところまで気づいたと思います。事務局で修正されているのでこの修正でいいと思います。

会 長 : では、修正通りということでしょうか。

事務局 : 追加説明があります。資料2の43頁の基本目標5、政策4について、「新公共経営と共創による行政運営を推進します」とありますが、第10回の審議会では、共創という文字がありませんでした。全員協議会で新公共経営という言葉は古いという指摘があり、会長とも相談をしました。会長との相談では、新公共経営という言葉は30年ほど前からあるものの、それに代わる新たな言葉で、広く使われているものもないとのことでしたので、新公共経営は、そのままとし、共創という言葉を追加しています。

会 長 : この言葉については、事務局からも相談がありました。新公共経営は1980年代、サッチャー首相、レーガン大統領以来、小さな政府を目指すため市場機能をもっと使うべきということで、効率性重視の動きが強くなり、日本では、90年代以降、小泉政権から強く推進されました。それが新しい公共です。その結果、様々な行政改革が行われ、県内でも県庁などは全国でも進んだ動きが多々でてきました。2000年代に入って、効率重視が行き過ぎということで、やや反省し効率一辺倒ではない、住民と行政が一体となって協働で地域を作っていくという動きがでてきました。それが共創という言葉に含められてます。ただ、財政が厳しい中、自治体も経営概念を踏まえ、外的環境に耐えうる組織にするため新公共経営は必要だという学者もいて、そのエッセンスも取り入れ、人にやさしい感覚も取り入れて、新公共経営という概念を入れています。事務事業評価などを市としては進めていきたいということなので、議会の意見も入れながらこのような表現にしています。では、議事2について、事務局から説明をお願いします。

(2) 菊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略について（報告）

事務局 : 資料説明

会 長 : まち・ひと・しごと創生総合戦略は、審議会を通じて作られましたが、事業については、具体的にどのようなことをやったのか、国の補助金に基づいて何をやったのかは、ほとんど知らなかったわけです。本来ならもっと時間をかけて報告を受けるところですが、時間もないなか、このような駆け足の説明となっています。

委 員 : 中身については、11月の審議会では話すとして、その前段階として、評価が4段階になっています。「目標を上回っている」といった解釈は11項目を基にしているとの説明でしたが、その辺をはっきりしておかないと解釈にずれが生じます。目標を上回るのが1人でも上回ればいいのか、あるいは、10%以上、上回ればいいのか、その解釈をはっきりさせておいてもらいたいです。また、数値で出す場合、A評価は、目標数値と値が一致しないとA評価になりません。

事務局 : S 評価、A 評価の区切りについては秋までに、はっきりとさせます。

事務局 : 去年は、作ることに全力をあげ、平行して事業が進んでいたのも、事業の説明が遅れて申し訳ありません。秋にはしっかり説明をします。菊川市の最近の状況としては、住民基本台帳人口は7年ぶりに増加しました。中身を見ると、外国人が多くなっています。4月以降の動態でみると、自然、社会ともに増えています。しかし、マイナバーの通知が返送されてきたものをチェックしているところであり、その結果、居住実態がなければ抹消していくので、今後、人口が減る可能性があります。また、学研の住みよさランキング2016が公表され、県内においては2位です。5つのカテゴリで、全国813市区の結果として157位、県内では2位という結果がでました。

会 長 : 個人的な感想としては地方創生の動きはやや当初の盛り上がりからトーンダウンした感じがあります。菊川市の堅実な部分があったせいか、交付金をがめつくもらう感じがないので、もう少し思い切ったアプローチがあっても良かったと思います。今後も交付金はあるようなので、実力を大いに発揮してもらい、取ってきてもらいたいと思います。ぜひ、甲子園にでるようなつもりで、飛躍をしてもらいたいです。

委 員 : 先日の新聞に、推計人口で、菊川市が県内でトップの増加であるとでていました。その要因について分かっていることがあればお願いします。

事務局 : 144名の増加があり、年間を通してみると、冬場は自然減があります。春前後になると移動もあり、年間でみると、外国人の増加がほとんどです。一部では、駅の北側のマンションの入居であったり、白岩の開発の入居であったりなどがあります。経済的に見ると、企業の関係で住まいを菊川に移された方が多かったと考えています。外国人の国別にみると、ベトナム、ブラジル、インドネシアが多かったです。月々で違いますが、3月前後は外国人の増加が多く、それ以外は民間開発による増加が多い傾向となっています。

事務局 : 補足として、平成27年度が7年ぶりに住民基本台帳人口が増加したといいましたが、日本人は減少、外国人は増加しています。今年は157人増加しており、日本人はゼロ、外国人が増加しています。日本人だけみると、自然減の状態なので、それでも人口が減っていないのは社会増が一定程度あるということです。外国人は景気の関係だと思われます。

会 長 : 日本人の転入者増は、周辺からの転入が多いからです。菊川の経済が強いからというよりも、沿岸部から内陸部にきているような感じもします。島田市は静岡市にかなり転出しており、藤枝市や焼津市へ島田市から流れています。原因をみないと菊川の強さかどうか判断はできません。分析が必要かと思います。特に質問はありませんか。では進行を事務局に返します。

4 その他

今後のスケジュールについて

5 閉会

副会長：審議会も最初は27年2月に皆さんの紹介からはじまりました。その中で市民に評価される総合計画をつくりましょう、と言いましたが、それから1年5ヶ月たち、パブリックコメントをみると、市民に評価されたと判断してもいいと思います。その間、課長をはじめ、事務局の皆さんは大変な思いをされたと思います。計画が完成し、一つの区切りとなりました。次回以降、第2ステージとなり、今後はチェック機能に重点を置いた会議になるので、よろしくお願いします。

以上